

報 告

近畿病院図書室協議会 第39回総会・第130回研修会に参加して

別府さおり

日 時：2013年3月19日（火）10:00～16:00

場 所：キャンパスプラザ京都

プログラム：

1. 病院図書館とりポジトリ
 藍野大学中央図書館 増田 徹 氏
2. 図書室引越顛末記
 湘南藤沢徳洲会病院 伊藤 友香 氏
3. 外国雑誌冊子体から電子ジャーナルへ
 大阪労災病院 松井美抄枝 氏
4. 外国雑誌直接購入の試み
 鳥取県立中央病院 中島 志乃 氏

2013年3月19日に京都で開催された研修会へ参加しました。演題すべてがまさに「今」聞きたい事、知りたい事ばかりで大変有意義な一日となりました。

当院は2014年に新築移転を控えており、日常業務と並行しての一人職場である図書室の引越は、どのような段取りで準備を進めていけばいいのか不安でいっぱいです。そのような中で今回研修会の前日に湘南藤沢徳洲会病院の医学情報センターを見学させてもらい、伊藤さんの報告を聞いて、自分なりに具体的な今後のスケジュールを思い描くことができました。また、昼食時にも皆さんからそれぞれに設計や設備のことなど移転に関してのアドバイスを頂き、今回研修会に参加したからこそ得られた貴重な時間となりました。

松井さんの報告では、冊子体をすべてオンラ

インジャーナルへ変更するにあたり、院内の意思統一が困難な場合は「図書委員会の決定＝病院の決定」とできる強力なサポーターが必要であること、中島さんの報告では、雑誌の直接購入に際しては支払い手続きが複雑になる場合があることなど、具体的事例を聞くことができて大変参考になりました。

そして楽しみにしていた午後の諏訪先生の記念講演は1時間がほんとうにあつという間で、まだまだお話を伺いたかったと思いました（周りにも同じ感想の方がいらっしかったです！）。

当院でも看護研究を行っていますが、キーワードの選び方など境界領域特有の難しさに加え、データベースの使い方など、利用者の満足は得られたのだろうか毎回反省することしきりです。先生の「看護研究は病院を場とした心理学、方法論のデパートと言える分野」「看護師が患者を理解したいように、我々も看護師の理解に努める」というお話が印象的でした。そして、とにかく図書室に来てもらい、「行けば何とかなる感」を持ってもらうこと。これは私自身、日常業務の中で心がけていることではありますが、あらためて非常に大切なことなのだと深く感じながら帰途につきました。

今回の研修会で得た知識を今後の業務に生かしていきたいと思います。

充実した時間をありがとうございました。